

第VI章 海外の現地調査を踏まえた先進事例調査

1. 海外の現地調査を踏まえた先進事例調査について

(1) 調査の概要

(1) - 1 調査目的と視察先

(1) - 1-1 目的

シンガポール及びマレーシアにおいて、IT産業等の集積地開発等における、緑豊かな環境が都市機能と融合して魅力あるまちが形成されている先進的・具体的事例を調査することによって、普天間飛行場跡地にあるべき環境づくり、クラスター形成等によるまちづくりのあり方について、今後の検討を深化させる一助とする。

(1) - 1-2 視察先

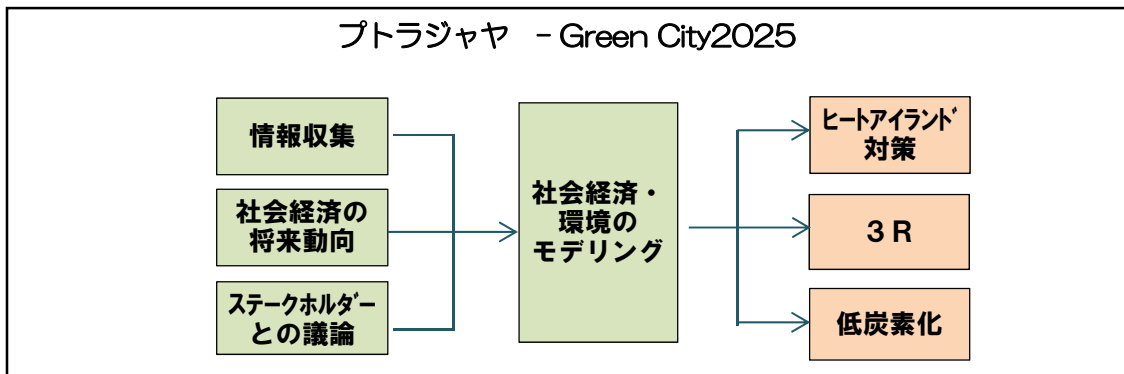
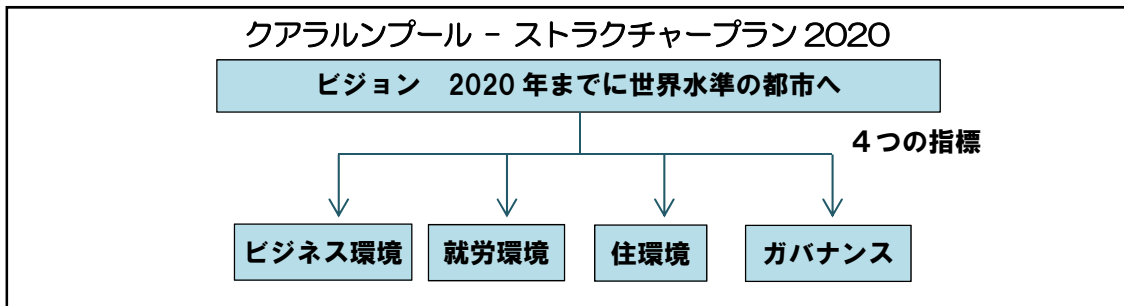
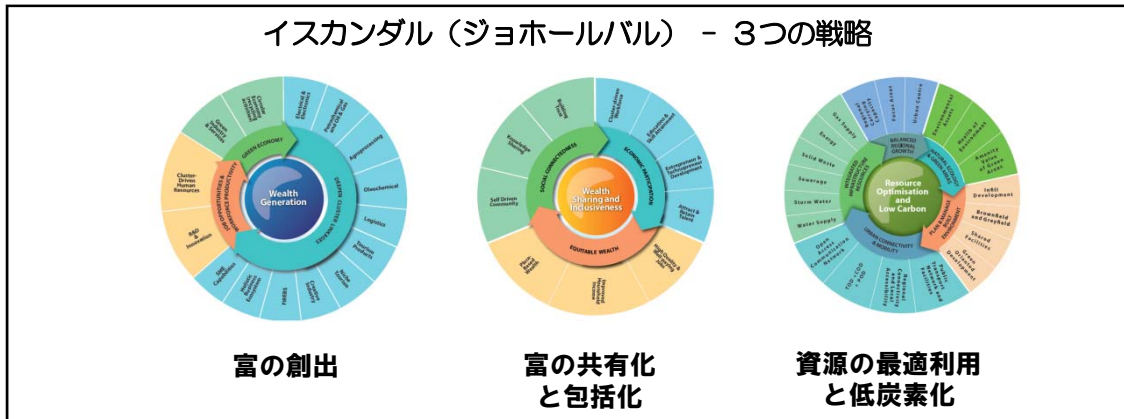
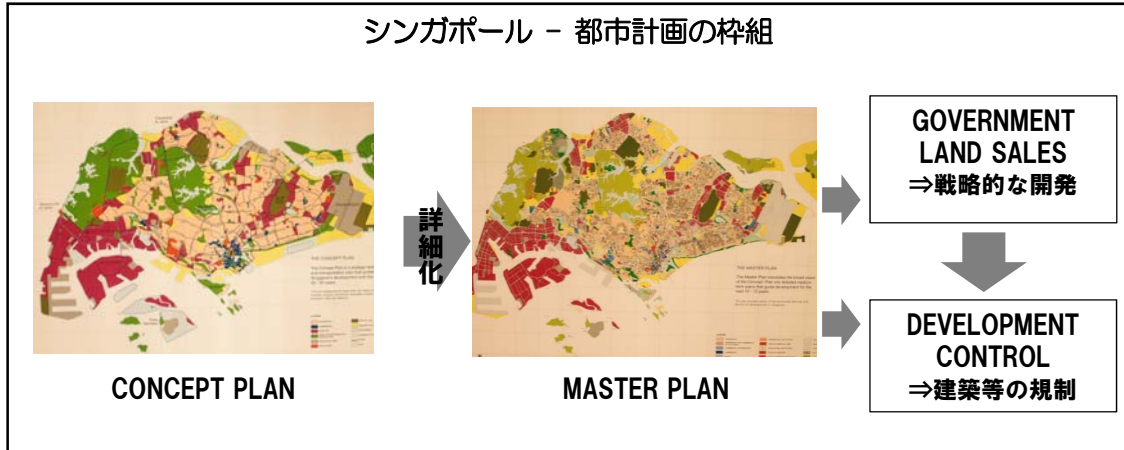
表VI-1 視察先の特徴

国	訪問都市	特徴	訪問・ヒアリング先 ※ヒアリングのポイント
シンガポール国	シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーデンシティ (⇒シティ・イン・ア・ガーデン) による緑化政策 ・アジアを代表する業務地区、研究開発・テクノロジー開発地区が集積し、ハブ機能を有する ・観光やMICE分野においても日本を上回る国際競争力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェトロ シンガポール ※現地の経済事情やビジネス環境の説明 ・シンガポール政府建設局 (BCA) ※緑化施策、特にグリーンビルディング認証「Green Mark」について情報を把握 ・シンガポール国立大学 (NUS) デザイン・環境学部建築学科+キャンパス視察 ※シンガポールの緑地政策について、学術的見地からの意見等を聴取 ・都市再開発庁 (URA) ※都市開発の概要や緑地等の整備・管理の取組みに関する情報を把握
マレーシア国	ジョホールバル	<ul style="list-style-type: none"> ・イスカンダルプロジェクトでは多種多様な産業分野から、世界を代表する企業等を誘致 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスカンダル地域開発庁 (IRDA) ※開発時の基盤整備や管理運営、企業誘致に関連する仕組み等の情報の把握
	クアラルンプール	<ul style="list-style-type: none"> ・プトラジャヤでは既存の豊かな水や緑を活かした開発を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・プトラジャヤ・コーポレーション (PPJ) ※開発時の環境づくり、基盤整備や管理運営等に関する情報の把握 ・クアラルンプール市 ※クアラルンプールにおける都市計画、緑化政策に関する情報の把握

(2) 調査結果と考察

(2) -1 計画づくり・まちづくり全般について

各都市の計画づくりやまちづくりについて以下にまとめる。



(2) -2 環境づくりについて

(2) -2-1 シンガポール

「シンガポールでは緑に対する少ない投資によって、大きな成果を得られた」
リー・クワンユー

- 公共公益空間の緑化・徹底した管理+民間による立体的な建物緑化
- 建物のグリーン化について包括的な認定制度とインセンティブ付与
- 観光と緑の融合したラグジュアリーホテル

豊かな緑（緑量・整った緑）が見える都市
民間による緑・環境の良さを維持するしくみ
観光・企業誘致に向けたシティプロモーション

シンガポールの緑の政策について (NUS ヒアリングより)



建築の緑化等により容積を緩和
⇒民間が緑を創出・管理



緑化で重要なのは、道路の緑化
⇒緑が多い都市に見える

観光のコンテンツとしての緑



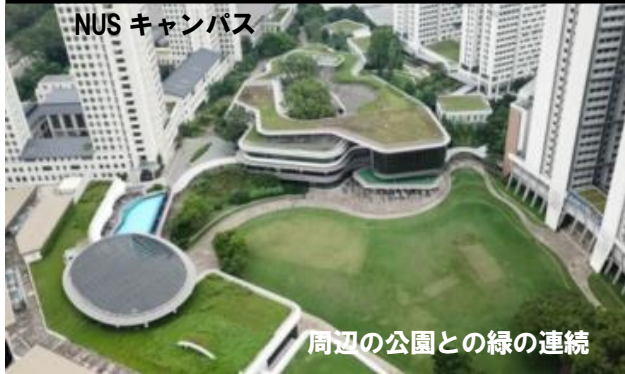
シンガポール植物園



ガーデンズバイザベイ

- ・国民の緑に関する満足度は8割程度
- ・民間による緑の創出・管理⇒規制とインセンティブ

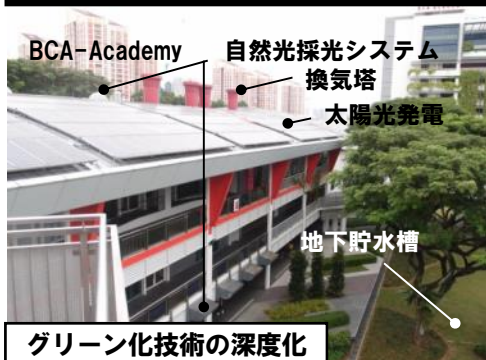
緑豊かな公共公益施設



周辺の地形や緑と一体的な高級ホテル

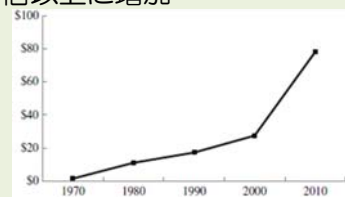


建物のグリーン化-Green Building

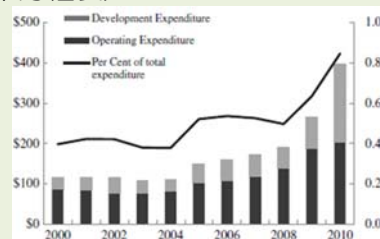


緑の維持管理

1人当たりの公園支出及び緑の管理費 1970年から2010年の間に50倍以上に増加



総支出に対する割合は2000年から2010年の間で倍増 (維持管理費が半分程度)



(2) -2-2 マレーシア
経済発展により問題が顕在化した環境の再生と新たな都市づくり

- 行政主導による水と緑のまちづくり
- 都市の機能分担の明確化と通信インフラの充実による効率的な都市利用

自然環境の再生や低炭素化の促進による持続可能な都市づくり
IT系企業や教育・研究機関の集積

緑化の手法



水辺の再生・高質化



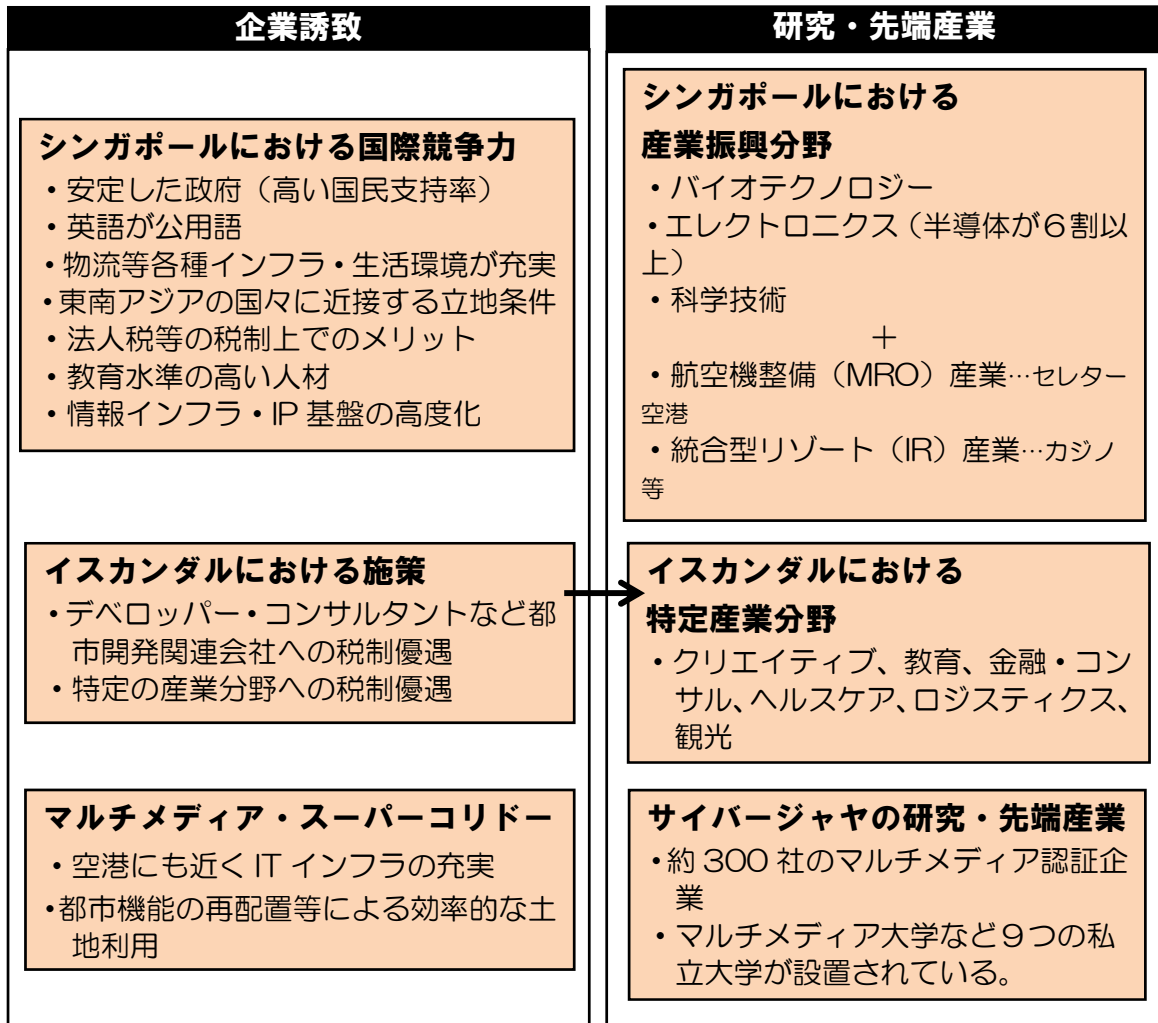
歴史資源の保全



緑の中の教育・研究機関



(2) -3 土地利用について



行政機能の移転（プトラジャヤ）



(2) -4 都市基盤について

交通

公共交通の利用促進（シンガポール）



シンガポールでは2030年までに80%の人が徒歩10分以内にMRTの駅にアクセスできるように計画

シンガポール郊外の公共交通システム



シンガポールでは駅の上下で自動運転のLRTとMRTが直結し、駅前にはバスターミナル、レンタサイクルなど、各交通手段のスムーズな乗り換えが可能。

TOC（クアラルンプール）



モノレール、LRT、MRT、急行列車など、多種多様な交通システムの導入

高速充電システム（サイバージャヤ）



日系企業が中心となって、路線バスの高速充電（約10分間）システムの実証実験を実施

情報インフラ

シンガポール・スマートネーション

ビッグデータやIoTなど最新ICT技術を導入し、各種データをオープン化しており、交通渋滞やバスの運行情報、治安の保持、銀行のキャッシュレス制度など多様な活用を行っている。

マルチメディア・

スーパーコリドー (MSC)

クアラルンプール市の中心地から空港まで南北50km 東西15kmの区域に高速通信インフラを整備し、区域内における情報の取扱いを法的に定めるサイバー法を策定。

(2) -5 合意形成・情報発信について

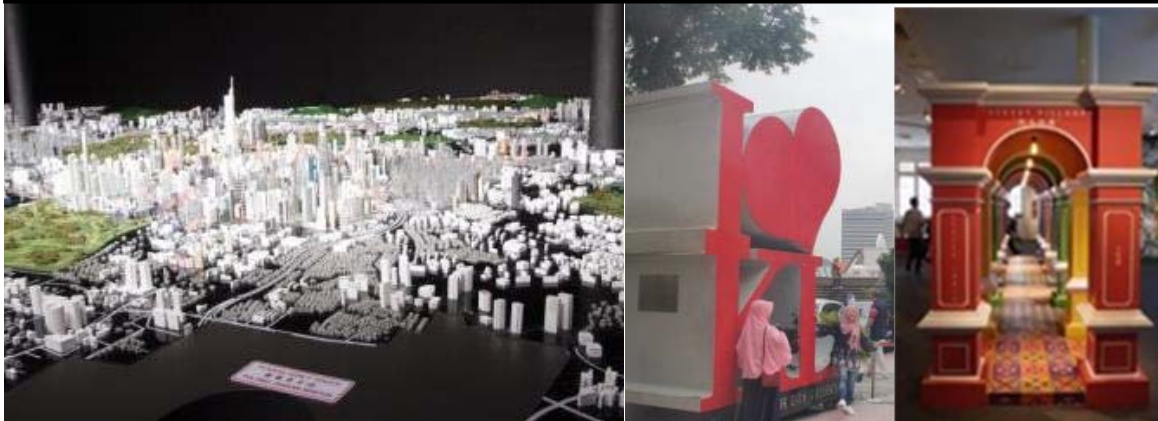
合意形成 (シンガポール/URAシティギャラリー)



- ・緑化政策や都市開発プロジェクト等について分かりやすく紹介
(例：沿道の看板や街路樹の有無による景観の違いをデジタルで展示)

⇒教育・学習の場としての役割も担う

情報発信 (マレーシア)



- ・模型とプロジェクションマッピングを活用し、世界における順位によりクアラルンプールの特徴を示す。

⇒都市の魅力を広くアピールするプロモーション

- ・観光客の目を引く模型等の展示による誘客戦略
- ⇒来訪客による情報拡散